

第9期 /平成20年 3 月期

第1四半期 決算説明資料



カブドットコム証券
東証1部 [8703]

2007年8月3日

カブドットコム証券株式会社



・ 決算概況

- (P 3) 平成20年3月期 第1四半期 決算ハイライト
- (P 4) 決算業績
- (P 5) 販管費概況
- (P 6) 決算業績(直近四半期推移)
- (P 7) 販管費(直近四半期推移)
- (P 8) 主要経営指標

・ 決算実績から見た当社ポジショニング

- (P10) 株式個人委託売買代金シェア
- (P11) 口座数(四半期推移)
- (P12) 預り資産(四半期推移)
- (P13) 投資信託預り資産(月次推移)
- (P14) 当社投資信託サービスの特徴
- (P15) 営業収益経常利益率(四半期推移)
- (P16) コストカバー率(四半期推移)
- (P17) 金融収支と信用建玉残高(四半期推移)
- (P18) 先物取引口座数と先物委託手数料(四半期推移)
- (P19) 外国為替証拠金取引(FX)取扱開始
- (P20) 三菱UFJフィナンシャル・グループの連結子会社化により新たなステージへ
- (P21) 顧客年齢層および証券仲介比率
- (P22) IPO/PO取扱い件数(四半期推移)

・ 営業数値概況

- (P24) 1日当たり株式約定件数・約定金額(四半期推移)
- (P25) 手数料率と株式1約定当たり売買代金
- (P26) 信用評価損益率(買建のみ)
- (P27) 株券差引入庫額(1)
- (P28) 株券差引入庫額(2)

・ 当期の取り組み等

- (P30) 当期の主な取り組み
- (P31) システム関連の開示
- (P32) お客様サポートセンター関連の開示
- (P33) 売買審査状況
- (P34) kabu.comPTS(夜間取引)関連の開示
- (P35) コーポレート・ガバナンス
- (P36) 知的財産関連の活動状況

・ 当社の経営目標

- (P38) 当社の経営理念・経営方針
- (P39) 当社の経営目標



・決算概況

平成20年3月期 第1四半期 決算ハイライト

営業収益52億円、経常利益26億円、当期純利益15億円

- 営業収益 : 52億円 (前年同期比 10%、前四半期比 4%)
- 金融収支^(*) : 14億円 (同 +20%、同 +14%)
- 経常利益 : 26億円 (同 23%、同 6%)
- 当期純利益 : 15億円 (同 24%、同 +8%)

(参考) 個人委託市場(三市場) : 10,840億円/日 (前年同期比 9%、前四半期比 17%)

個人委託市場(JASDAQ) : 481億円/日 (同 57%、同 34%)

個人委託市場の低迷により減収。金融収支改善等が業績を下支え。

業容は拡大基調が継続

- 株式個人委託売買シェア(三市場 + JASDAQ)で4位に浮上。
- 預り資産は順調に伸長、前年同期末比+10%。
- 口座数も順調に増加 (前年同期末比で証券口座数+15%、信用口座数+19%)

*1: 金融収支 = 金融収益 - 金融費用

決算業績

個人委託市場の落ち込み(三市場 9%、JASDAQ 57%)と手数料引下げにより受入手数料が減収。金融収支改善(+20%)はあるものの、純営業収益は 12%、経常利益は 23%に(前年同期比)。

金融収支: 信用取引貸付金の期中平均残高の拡大による収益増加に加え、資金調達が多様化と格付取得による調達コスト削減により改善

(単位: 百万円、切捨)

	平成19年3月期 第1四半期(4-6月)	平成20年3月期 第1四半期(4-6月)	前年同期比 増減率
営業収益	5,887	5,276	-10%
受入手数料	4,378	3,458	-21%
金融収益	1,505	1,818	+21%
金融費用	293	366	+25%
(金融収支 = 金融収益 - 金融費用)	1,212	1,452	+20%
純営業収益	5,594	4,910	-12%
販管費	2,123	2,284	+8%
営業利益	3,471	2,626	-24%
経常利益	3,491	2,686	-23%
税引前純利益(四半期)	3,400	2,604	-23%
当期純利益(四半期)	2,019	1,532	-24%
ROE(自己資本純利益率)	24.4%	16.5%	-
(参考)三市場株式個人委託売買代金(/日)	11,931 億円	10,840 億円	-9%
(参考)JQ市場株式個人委託売買代金(/日)	1,108 億円	481 億円	-57%
(参考)当社約定金額(/日)	778 億円	653 億円	-16%

三市場・JQ市場株式個人委託売買代金(/日)は、東京証券取引所・JASDAQ公表数値より当社算

出

販管費概況

前年度中4月～9月に行ったBCP構築(4月にセンター開設)やPTS事業開始(9月)等に伴う不動産関係費・減価償却費の増加により、販管費は前年同期比で増加。

BCP: 事業継続計画(Business Continuity Plan)、PTS:私設取引システム(Proprietary Trading System)

(単位:百万円、切捨)

	平成19年3月期 第1四半期(4-6月)	平成20年3月期 第1四半期(4-6月)	前年同期比 増減率
販管費合計	2,123	2,284	+8%
取引関係費	1,053	1,086	+3%
広告宣伝費	93	84	-10%
その他	959	1,002	+4%
人件費	232	251	+8%
不動産関係費	356	522	+46%
事務費	231	194	-16%
減価償却費	81	155	+92%
租税公課	41	36	-14%
貸倒引当金	92	3	-97%
その他	33	34	+2%

決算業績(直近四半期推移)

個人委託市場の落ち込み(三市場 17%、JASDAQ 34%)の中、金融収支改善が寄与したほか、先物の堅調、FX投入等もあり、減収は小幅に留まる。
 純営業収益 5%、経常利益 6%、純利益+8%に(前四半期比)。

(単位:百万円、切捨)

	平成19年3月期				平成20年3月期	前四半期比	前年同期比
	第1四半期 (4-6月)	第2四半期 (7-9月)	第3四半期 (10-12月)	第4四半期 (1-3月)	第1四半期 (4-6月)		
営業収益	5,887	4,975	4,608	5,475	5,276	-4%	-10%
受入手数料	4,378	3,595	3,217	3,891	3,458	-11%	-21%
金融収益	1,505	1,378	1,390	1,582	1,818	+15%	+21%
金融費用	293	278	270	311	366	+18%	+25%
(金融収支 = 金融収益 - 金融費用)	1,212	1,100	1,119	1,270	1,452	+14%	+20%
純営業収益	5,594	4,696	4,337	5,163	4,910	-5%	-12%
販管費	2,123	2,079	2,270	2,267	2,284	+1%	+8%
営業利益	3,471	2,617	2,067	2,895	2,626	-9%	-24%
経常利益	3,491	2,587	2,070	2,867	2,686	-6%	-23%
税引前純利益(四半期)	3,400	2,509	2,002	2,388	2,604	+9%	-23%
当期純利益(四半期)	2,019	1,476	1,176	1,416	1,532	+8%	-24%
(参考)三市場株式個人委託売買代金(/日) 単位:億円	11,931	9,313	9,777	13,003	10,840	-17%	-9%
(参考)JQ市場株式個人委託売買代金(/日) 単位:億円	1,108	797	757	734	481	-34%	-57%
(参考)当社約定金額(/日) 単位:億円	778	615	615	811	653	-20%	-16%
(参考)信用建玉未残高 単位:億円	1,922	1,756	1,715	1,928	1,913	-1%	+0%

三市場・JQ市場株式個人委託売買代金(/日)は、東京証券取引所・JASDAQ公表数値より当社算出

販管費(直近四半期推移)

販管費は、前四半期比横ばいで推移。

なお、株券電子化や今後の業容拡大を睨み、勘定系システムを最新機種に刷新、あわせてBCP対応も実施したことから、不動産関係費は前四半期比増加。

(単位:百万円、切捨)

	平成19年3月期				平成20年3月期	前四半期比	前年同期比
	第1四半期 (4-6月)	第2四半期 (7-9月)	第3四半期 (10-12月)	第4四半期 (1-3月)	第1四半期 (4-6月)		
販管費率(対営業収益)	36%	42%	49%	41%	43%	+5%	+20%
販管費合計	2,123	2,079	2,270	2,267	2,284	+1%	+8%
取引関係費	1,053	1,087	1,086	1,100	1,086	-1%	+3%
広告宣伝費	93	140	121	73	84	+15%	-10%
その他	959	946	965	1,027	1,002	-2%	+4%
人件費	232	210	216	230	251	+9%	+8%
不動産関係費	356	437	522	467	522	+12%	+46%
事務費	231	184	189	194	194	+0%	-16%
減価償却費	81	106	148	154	155	+1%	+92%
租税公課	41	29	32	32	36	+11%	-14%
貸倒引当金	92	0	53	57	3	-95%	-97%
その他	33	23	20	29	34	+15%	+2%
(参考)受入手数料	4,378	3,595	3,217	3,891	3,458	-11%	-21%
(参考)当社約定金額(/日) 単位:億円	778	615	615	811	653	-20%	-16%

主要経営指標

市況低調によりROEは16%台。収益拡大と経費抑制で20%復活が目標。
 営業収益経常利益率、コストカバー率は悪化したものの、引き続きオンライン專業証券中トップクラスを維持。

下記主要経営指標については、今後も注視していく。

	平成19年3月期				平成20年3月期
	第1四半期 (4-6月)	第2四半期 (7-9月)	第3四半期 (10-12月)	第4四半期 (1-3月)	第1四半期 (4-6月)
ROE (自己資本利益率) *年換算で算出	24.4%	17.5%	13.4%	15.4%	16.5%
営業収益経常利益率	59%	52%	45%	52%	51%
コストカバー率 (委託手数料/販管費)	189%	158%	126%	155%	132%
コストカバー率 (委託手数料/システム関連費)	600%	451%	332%	430%	347%

営業収益経常利益率 = 経常利益 ÷ 営業収益

システム関連費 = 不動産関係費 + 事務費 + 減価償却費

決算実績から見た 当社ポジショニング

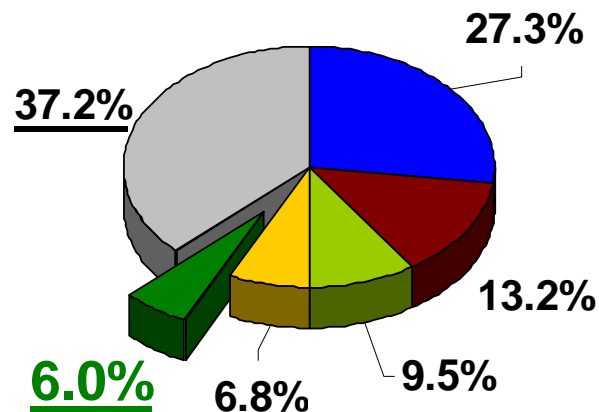
株式個人委託売買代金シェア

- 株式個人委託売買代金に占める当社シェアは、前年同期比0.2ポイント減となるもオンライン専門証券大手5社で4位に浮上する。

三市場+JASDAQ 株式個人委託売買代金シェア推移

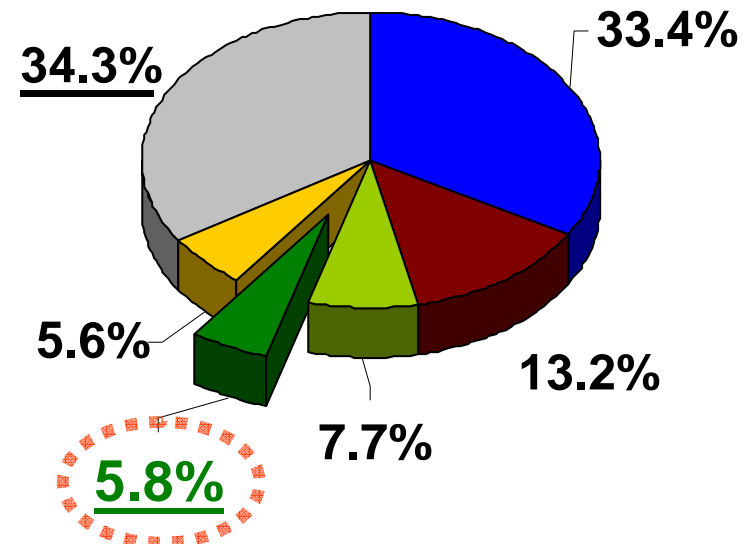
平成19年3月期 第1四半期

オンライン専門証券大手5社計 (62.8%)



平成20年3月期 第1四半期

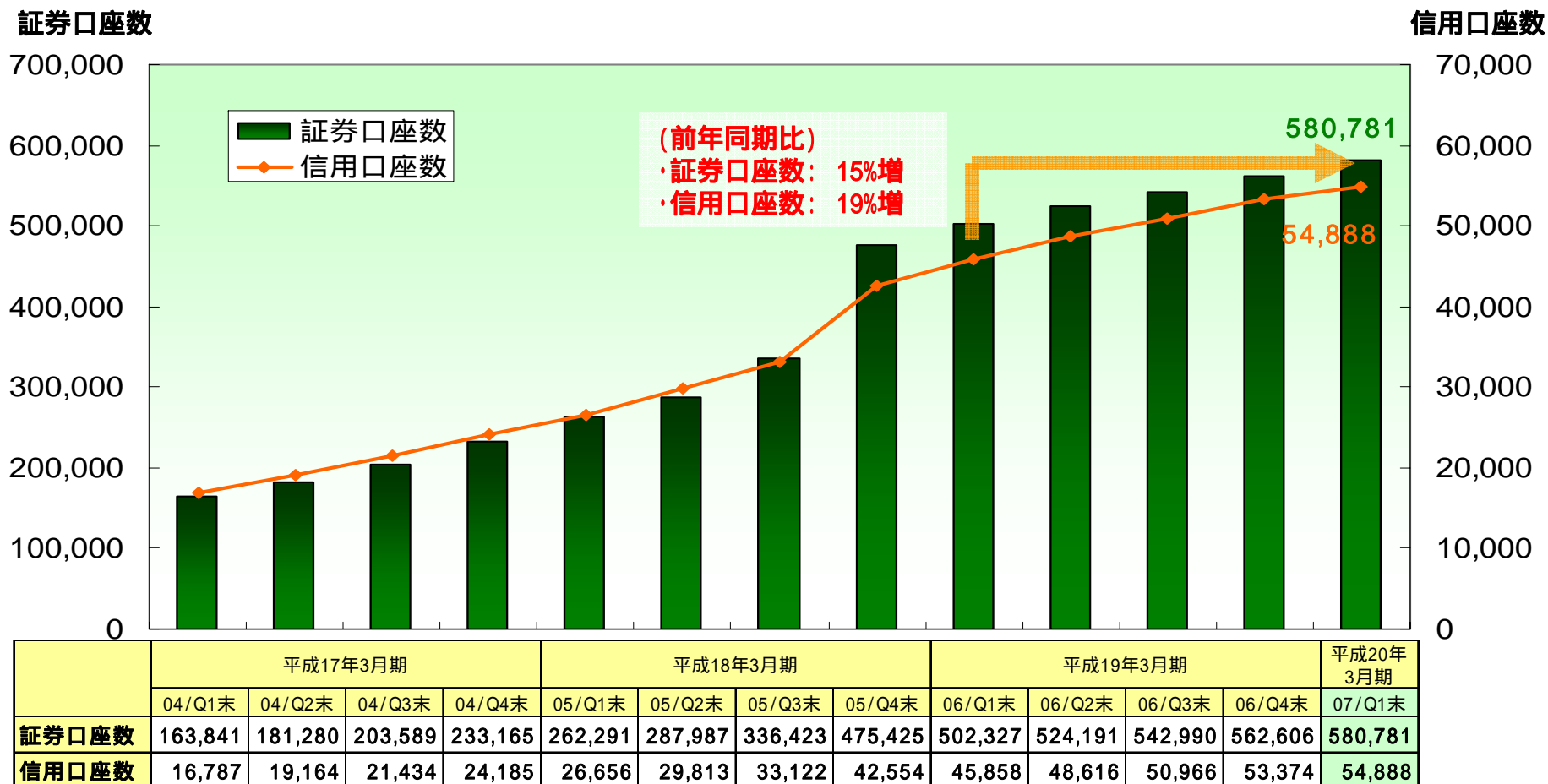
オンライン専門証券大手5社計 (65.7%)



東証統計資料、ジャスダック証券取引所統計資料、各社決算短信、各社決算発表資料、各社ホームページ等公表資料により当社にて集計

口座数(四半期推移)

- 当四半期末の証券口座数は、580,781口座に。(前年同期比15%増)
- 当四半期末の信用口座数は、54,888口座に。(前年同期比19%増)

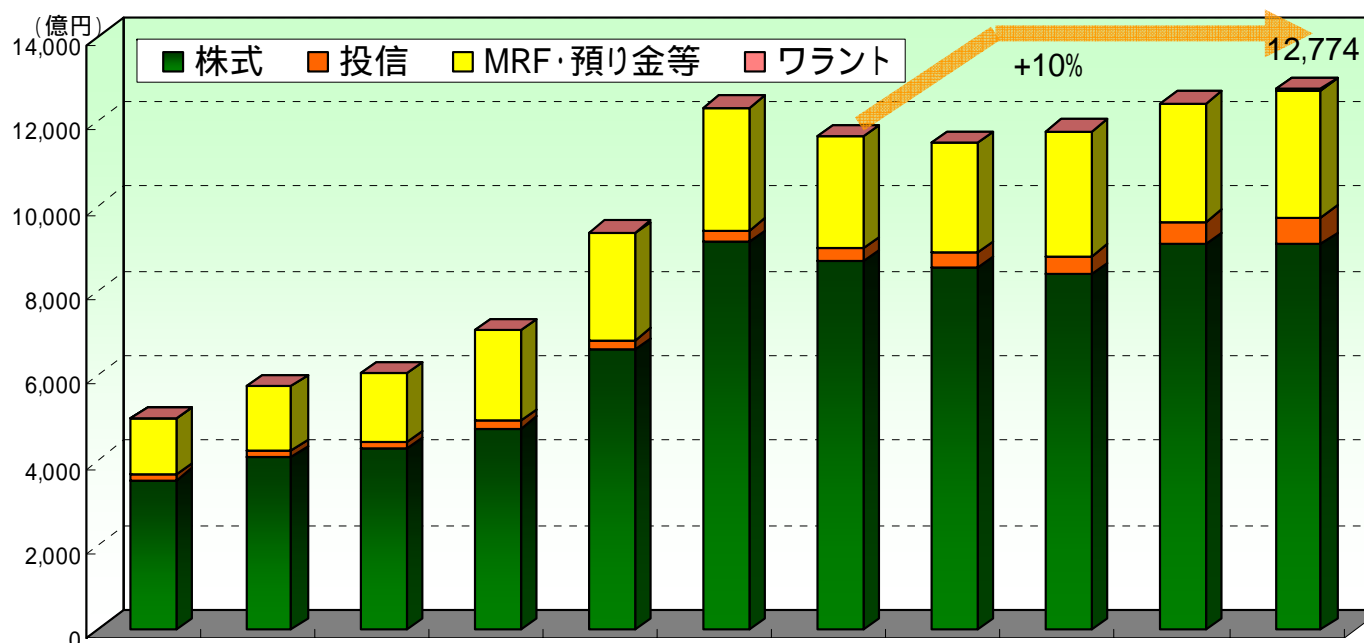


証券口座数・信用口座数とも、抹消済口座数を除いた純増数から算出

預り資産(四半期推移)

預り資産は、前年同期末比で10%増となった。

オンライン専業証券大手5社中最多水準のノーロード投信販売により、投資信託の当四半期末預り残高は、前年同期末比2.1倍に伸びている。



預り資産の内訳 (単位: 億円、切捨)

	04/Q3末	04/Q4末	05/Q1末	05/Q2末	05/Q3末	05/Q4末	06/Q1末	06/Q2末	06/Q3末	06/Q4末	07/Q1末
株式	3,537	4,080	4,291	4,760	6,624	9,159	8,697	8,550	8,392	9,120	9,103
投信	139	139	144	167	217	277	302	347	436	525	654
MRF・預り金等	1,322	1,535	1,632	2,146	2,540	2,903	2,658	2,608	2,950	2,801	2,997
ワラント	1	1	1	3	6	6	4	3	2	3	18
合計	5,001	5,756	6,068	7,078	9,389	12,347	11,663	11,510	11,782	12,451	12,774

時価ベースにて算出、MRFを2007年4月末に廃止いたしました。

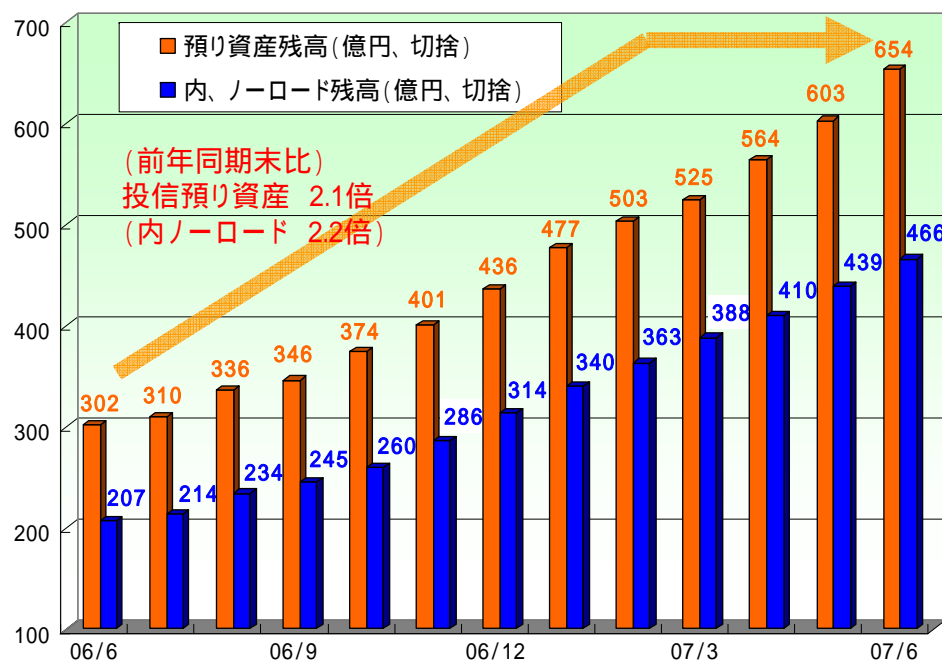
投資信託預り資産(月次推移)

オンライン専業証券最多水準の44ファンド76本のノーロード投信の取扱い。

2007年7月2日には67ファンド109本と更に取扱本数を拡充。

投資信託預り資産は、前年同期末比2.1倍の増加。

ノーロード投信の預り資産は、前年同期末比2.2倍となり、投資信託預り資産全体の約71%を占める。



預り資産残高は各月末の残高、時価ベースにて算出

全154ファンド234本中、67ファンド109本が手数料無料(ノーロード)

三菱UFJ世界国債インデックスファンド(毎月分配型)、ワールド・リート・オープン(毎月決算型)、PCAグローイング・アジア株式オープンの3ファンドを追加し、全154ファンド234本に。毎月分配型ファンド・BRICs・バランスファンド・不動産投信(REIT)やインデックス型ファンドなど、充実の投信ラインナップ。

また、23ファンド33本を手数料無料(ノーロード)化。これにより、全154ファンド234本中、67ファンド109本が手数料無料(ノーロード)となり、ネット証券屈指の品揃え。(7月現在)

当社投資信託サービスの特徴

ファンドDE割引

当社でお預りしている投資信託の月末残高1,000万円毎に、株式(現物・信用・プチ株・夜間取引)手数料を毎月1回無料にする手数料割引プラン(残高1億円以上は10回均一)。

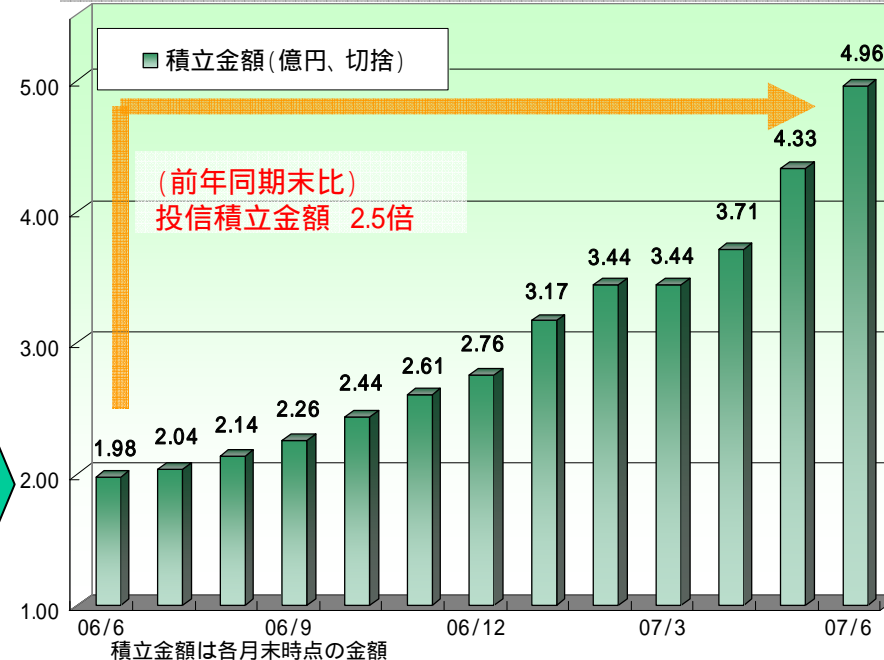
投資信託振替入庫サービス

他社(機構参加の証券会社・銀行等)で買付/保管されている投資信託のうち、当社取扱投資信託(MMF・中国ファンド除く)であれば、他社から当社に振替入庫可能(2007年7月~)。

投信つみたて「ファンド星人」

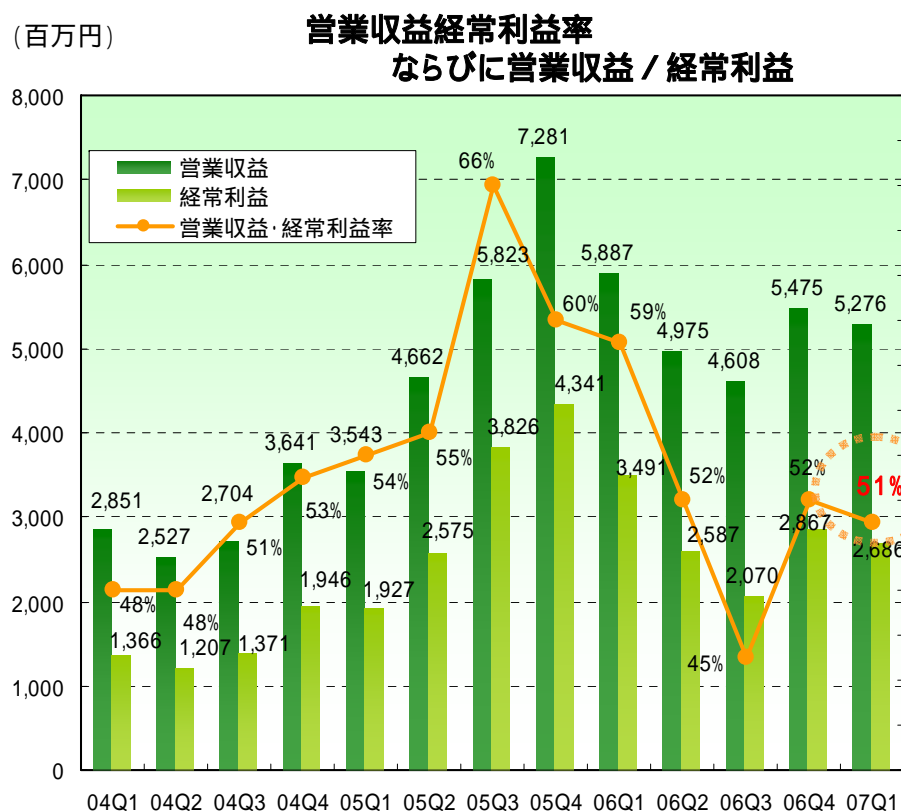
毎月1万円から証券口座または預貯金口座からの自動引落で投信積み立て可能。全96ファンドのラインナップを日にちも金額も自在に設定していただける使い勝手の良い投信積み立てサービス。積み立てプランの自動通知サービスも好評。

当四半期は、投信積立金額が順調に増加し、前年同期末比で2.5倍に増加(右グラフ)。

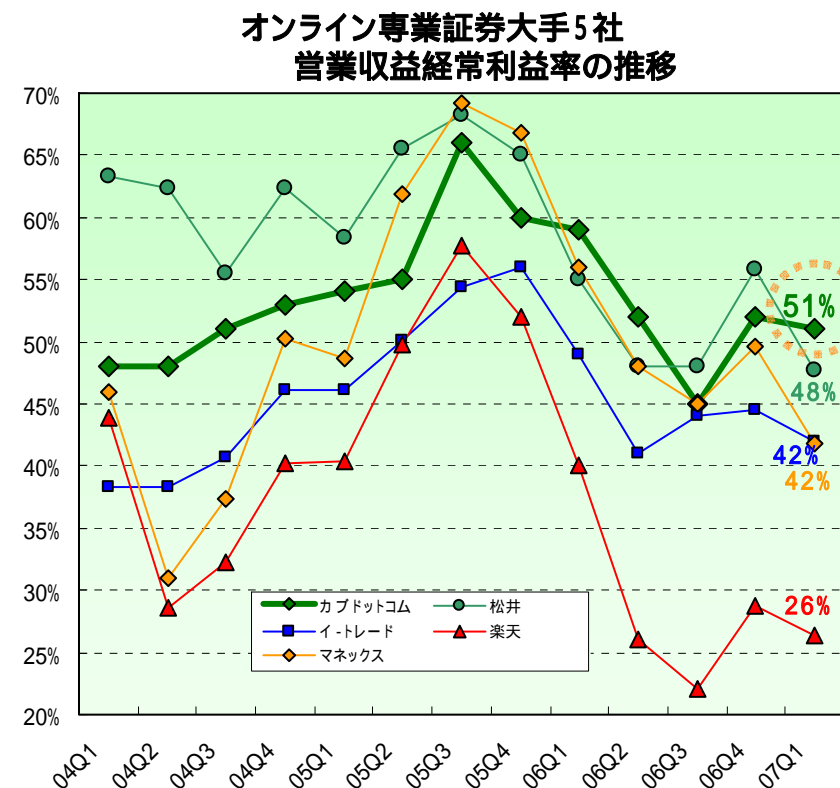


営業収益経常利益率 (四半期推移)

- 当四半期は個人委託市場が悪化したものの、金融収支改善等による下支えもあり、営業収益経常利益率は51%と、オンライン専門証券大手5社でトップクラス。



各社ホームページ等公表資料より当社作成
営業収益経常利益率は、四半期毎の営業収益、経常利益で算出

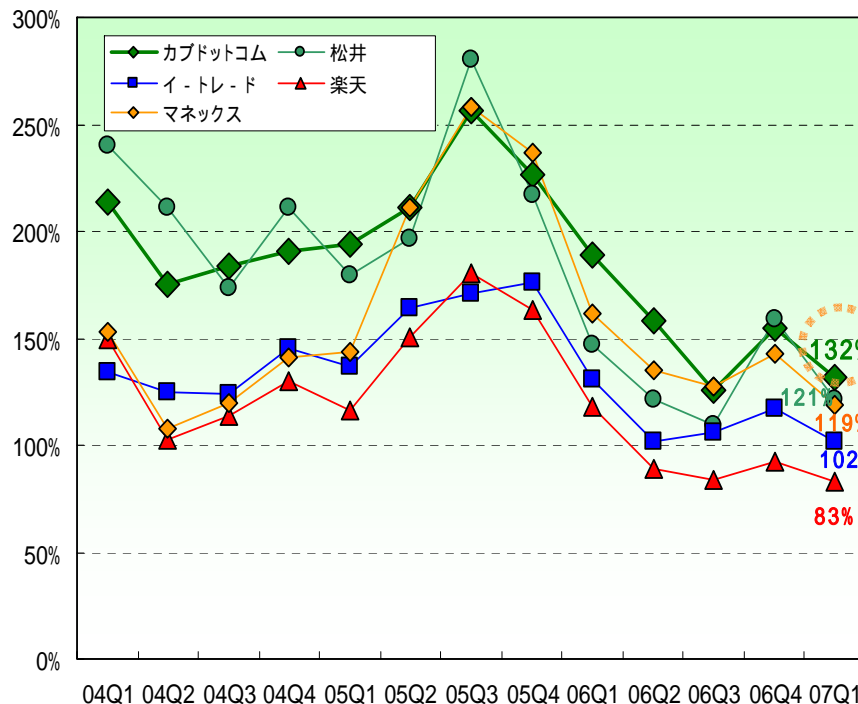


マネックスの合併前数値については、マネックス + 日興ビーンズの両社の単純合算値から算出
楽天は、楽天証券(個別)の決算発表数値より算出

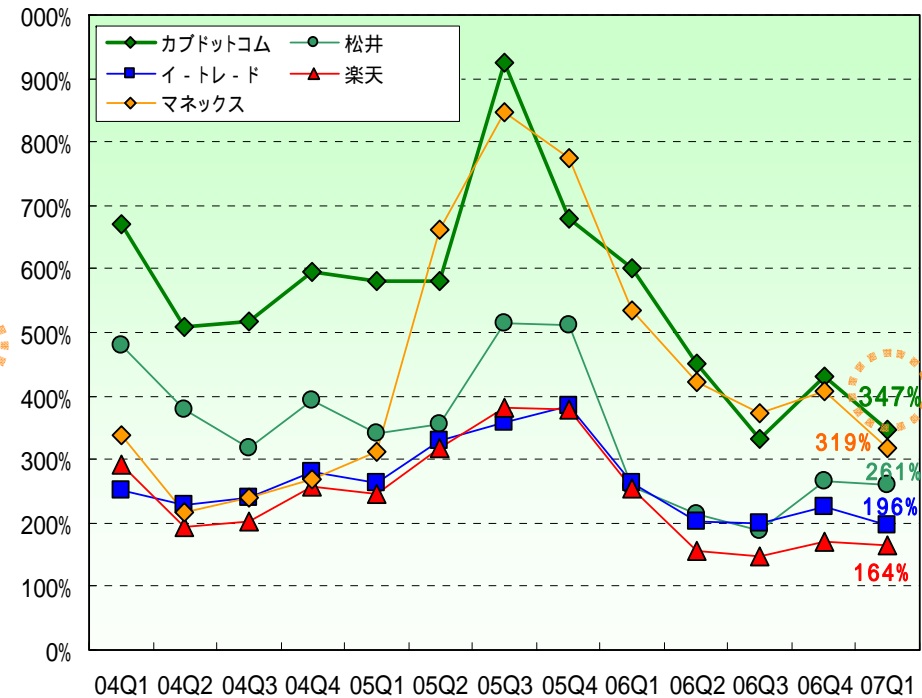
コストカバー率 (四半期推移)

- コストカバー率は前年同期比低下したもののオンライン専業大手5社でトップクラス。
- 自社システムを運営する当社は固定費中心のコスト構造 市場低迷で指標が悪化しやすい反面、市場活況に転じた際には急回復しやすい構造

コストカバー率 (委託手数料/販管費率)



コストカバー率 (委託手数料/システム関連費率)

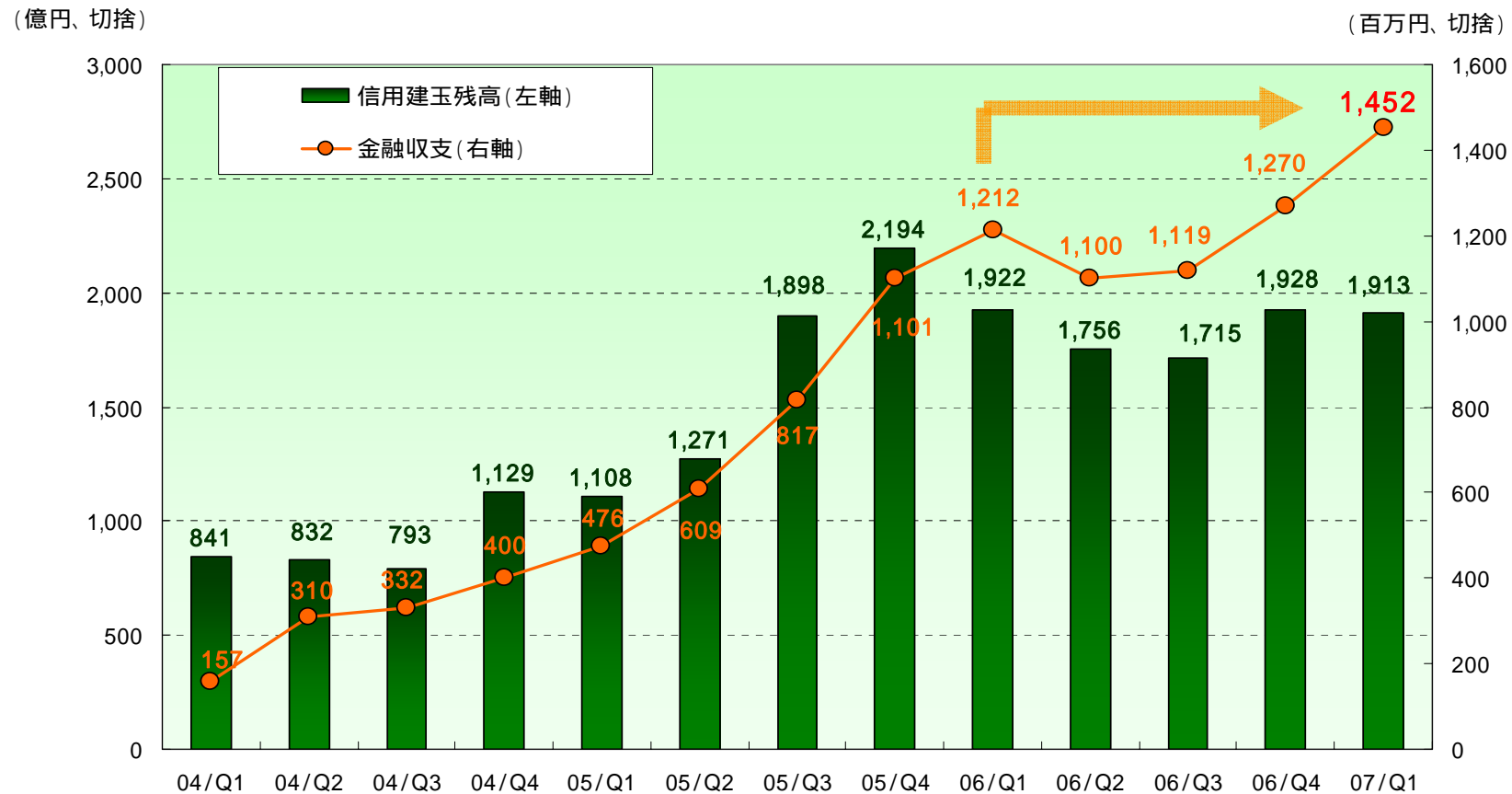


各社開示資料より当社算出
 システム関連費 = 不動産関係費 + 事務費 + 減価償却費
 マネックスの合併前数値については、マネックス + 日興ビーンズの両社の単純合算値から算出
 楽天は、楽天証券(個別)の決算発表数値より算出

金融収支と信用建玉残高(四半期推移)

金利上昇局面においても、低利資金調達枠の拡大や自己資金の活用等により金融費用を削減、その結果、金融収支は、前年同期末比で20%増となった。

日本格付研究所による[A+]への格上げ(2007年6月29日)を受け金融収支改善を更に進めていく。

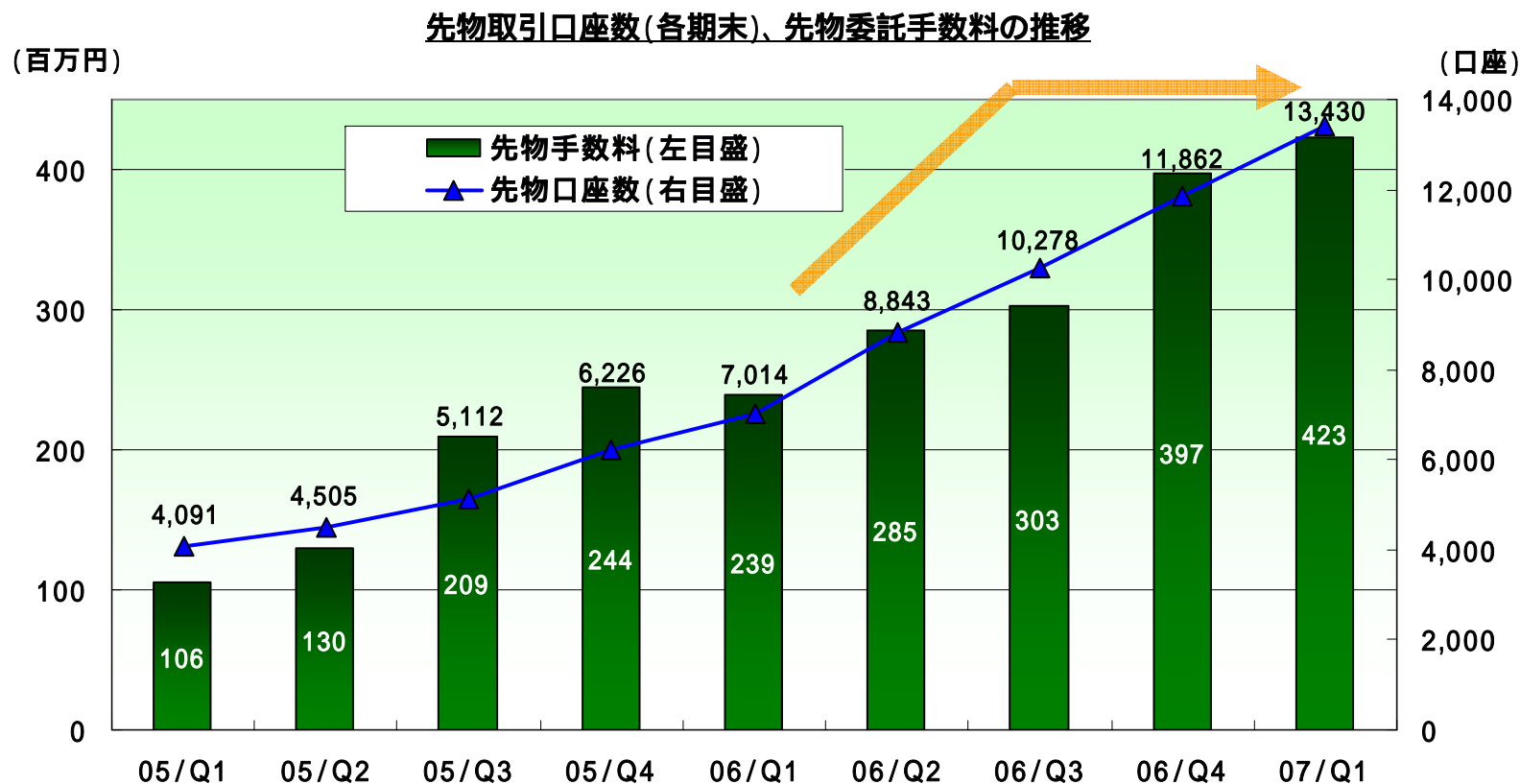


信用建玉残高は各期末の受渡ベースの数値

先物取引口座数と先物委託手数料 (四半期推移)

- 先物取引口座数は前年同期末比で91%増となり、13,430口座まで伸長した。
- 先物取引の委託手数料も前年同期末比76.9%増と着実に増加。

先物取引：日経225先物、日経225mini、TOPIX先物



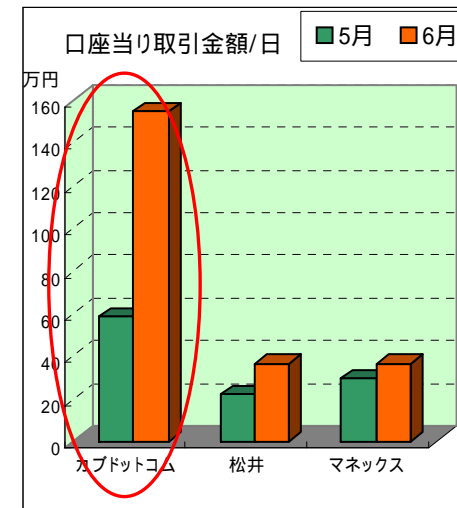
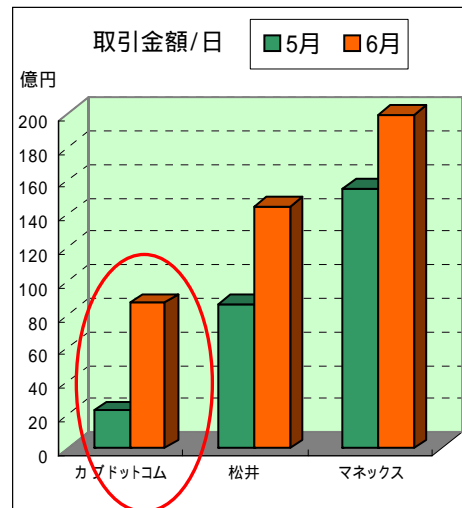
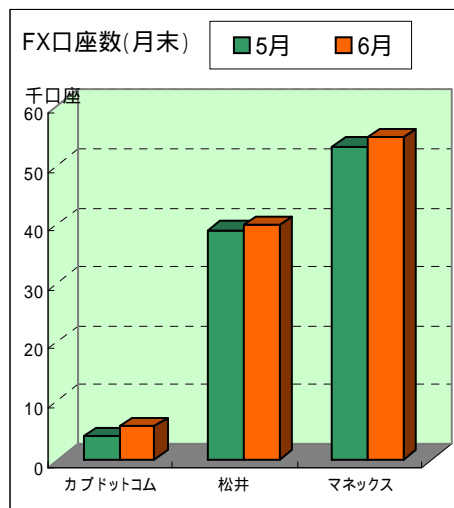
先物手数料値下げ

外国為替保証金取引 (FX) 取扱開始

- 2007年5月より外国為替保証金取引 (FX) の取扱いを開始
- 開始後間もなくFX口座数は少ないものの、取引金額で急速にキャッチアップ (6月の取引金額は86億円/日)、1口座当たり取引金額では突出

当社FX取引の主な特長

- ・株券を担保に利用可能(当社のみ)
- ・10通貨ペアを取扱い
- ・自動売買等のリスク管理機能
- ・オンライン專業証券で最低水準の手数料体系
- ・複数のレバレッジ・コース
- ・充実した投資情報



外国為替保証金取引 (FX) は、取引金額がお客様が預託しなければならない保証金の額に比べて大きい額となっており、投資額以上の損失が生じる可能性があります。また、外国為替保証金取引は元本や利益を保証するものではなく、為替変動リスクや金利変動等のリスクを伴います。本取引において当社が提示する売値と買値の間には差額があります。 <保証金(1万通貨): コース、通貨ペアにより25,000円 ~ 1,000,000円 / 手数料: 3銭(1万通貨当たり300円) >

カブドットコム証券株式会社 (登録番号: 関東財務局長(金先)第168号)

三菱UFJフィナンシャル・グループの連結子会社化により新たなステージへ





- MUFG連結子会社化により、「総合金融デパートのネット証券・リスク商品取扱プラットフォーム」として、三菱東京UFJ銀行等グループ企業との連携を更に強化。

MUFG顧客基盤へのアプローチの強化

証券仲介契約をベースに
三菱東京UFJ銀行
4,000万口座に加え、
三菱UFJニコスのカード会員
2,430万人への
アプローチを本格的に開始。
更には、
三菱UFJ証券、三菱UFJ信託銀行、
親密地銀等との
連携強化を図る。

当社顧客基盤
(58万口座)

これまでの主な取組み

-  三菱東京UFJ銀行
 - kabu.comカードと三菱東京UFJ銀行「スーパーICカード」/「ICキャッシュカード」の入金機能等の利便性強化(Edyチャージ)
 - 証券仲介サービス
 - 三菱東京UFJ銀行を所属銀行とした銀行代理業の許可取得、本格展開へ
-  三菱UFJ信託銀行
 - 団塊/シニア世代顧客向け会員組織「カブコム マスターズ倶楽部™」設立
-  三菱UFJニコス
 - 証券仲介サービス
 - 提携カード「kabu.comカード」発行
 - 取引手数料の1%を電子マネー“Edy”にてキャッシュバック
-  三菱UFJ証券
 - 株式等の引受業務に関する包括業務提携(IPO/PO取扱銘柄大幅拡大)
 - 三菱UFJ証券リサーチレポートを顧客へ無料提供
 - 今後、夜間取引市場「kabu.comPTS」への参加へ

 三菱UFJフィナンシャル・グループ

 三菱東京UFJ銀行

 三菱UFJ信託銀行

 三菱UFJ証券

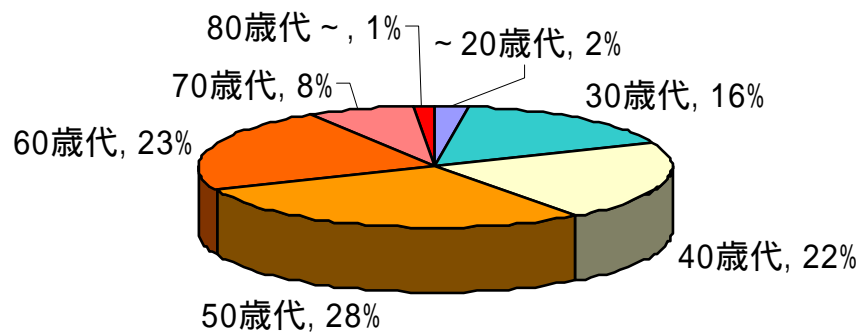
 三菱UFJニコス

顧客年齢層および証券仲介比率

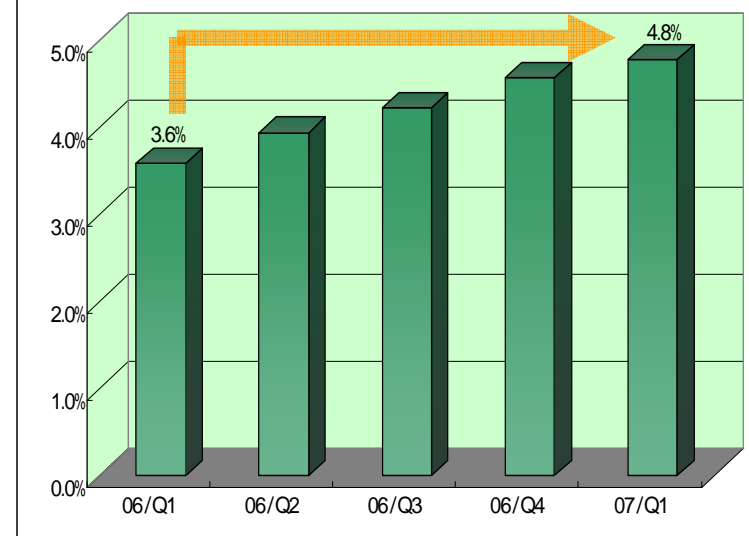
- 年齢別の個人顧客層分布において、50歳代以上のお客様の預り資産が約6割を占める。シニア層向け手数料戦略「シニア割引」も寄与。
- 一方、証券口座数に占める証券仲介口座の比率は未だ4.8%と、今後のMUFGグループとの連携強化により、シニア層をはじめとして、グループ会社等から仲介されるお客様の比率に更なる上昇余地。

シニア割引:現物株式の売買手数料を、満50歳以上満60歳未満のお客様は5%割引、満60歳以上のお客様は10%割引とする割引プラン。2005年「日経優秀製品・サービス賞」最優秀賞受賞。

年齢層別預り資産分布(当四半期末)



証券口座数全体に占める証券仲介口座の比率(各期末)

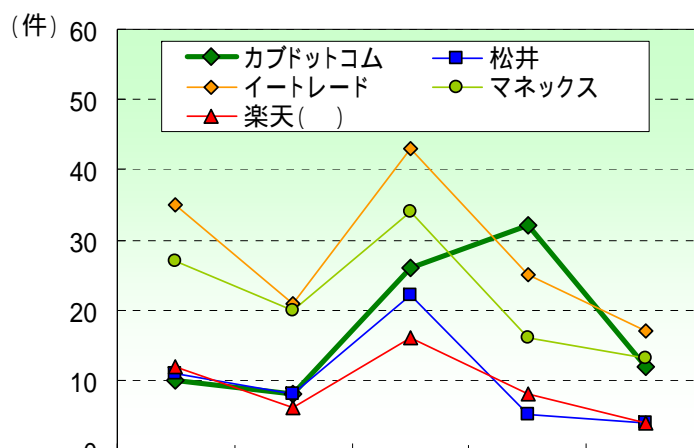


IPO/PO取扱い件数(四半期推移)

- 市場全体の当四半期のIPO件数は30件と、前四半期の43件から減少したため、当社の取扱件数も減少したが、引き続きオンライン専門証券の上位で推移。
- PO件数は、オンライン専門証券5社中、3四半期連続トップで推移。

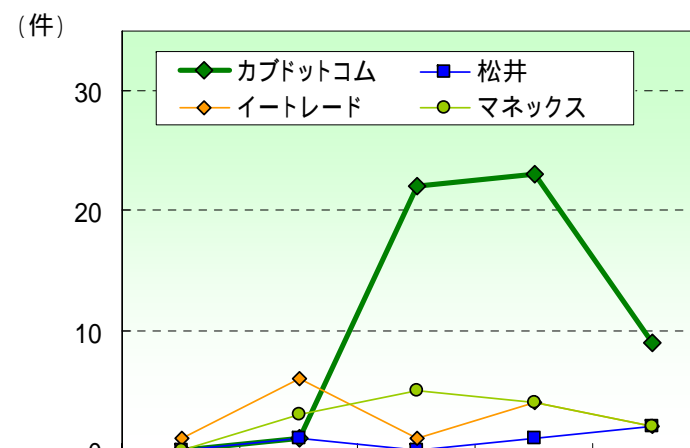
[オンライン専門証券大手5社 IPO/PO取扱実績推移]

新規公開株(IPO)



	06/Q1	06/Q2	06/Q3	06/Q4	07/Q1
カブドットコム	10	8	26	32	12
松井	11	8	22	5	4
イートレード	35	21	43	25	17
マネックス	27	20	34	16	13
楽天()	12	6	16	8	4

公募・売出し(PO)



	06/Q1	06/Q2	06/Q3	06/Q4	07/Q1
カブドットコム	0	1	22	23	9
松井	0	1	0	1	2
イートレード	1	6	1	4	2
マネックス	0	3	5	4	2

各社ホームページ等公表資料により当社にて集計

楽天証券のPO(公募/売出)取扱件数は公表されておらず、公表されているIPO取扱件数のみで資料を作成

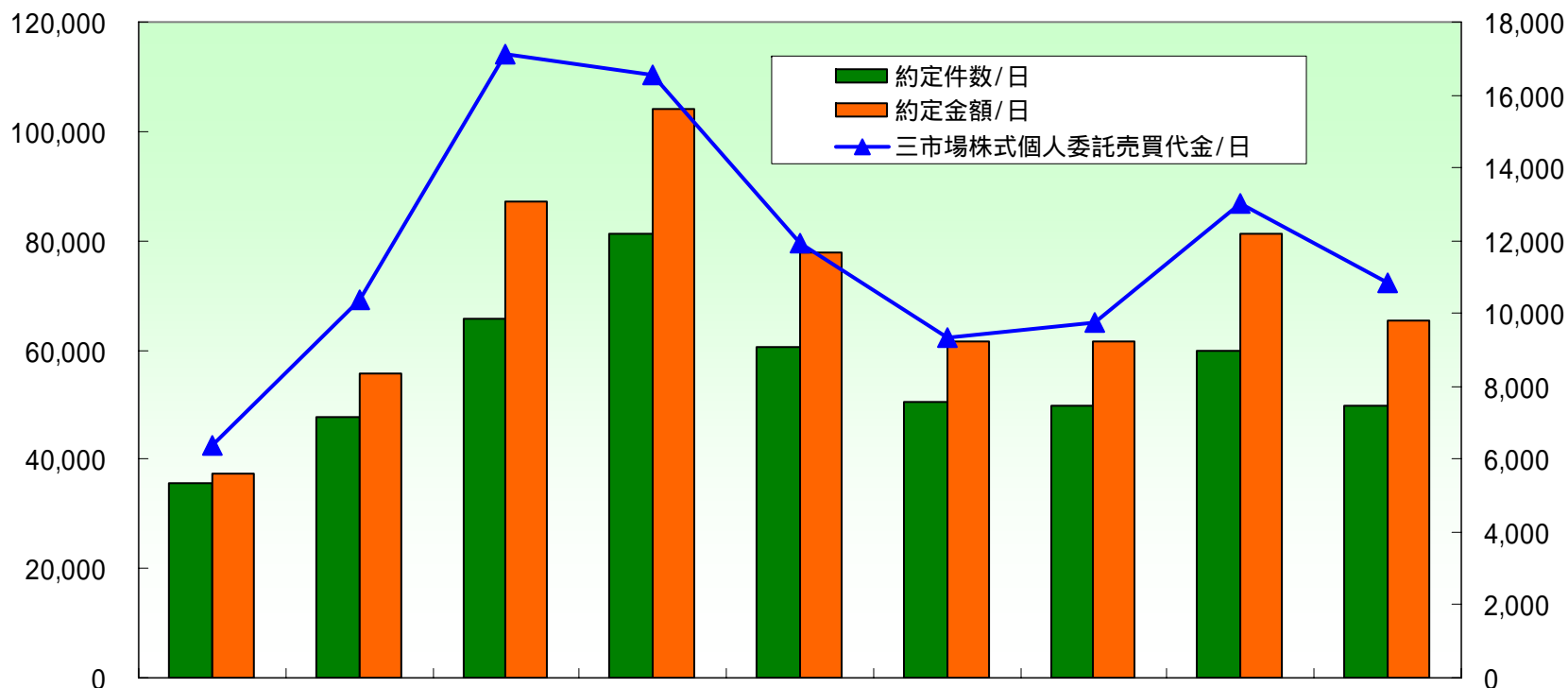
・ 営業数値概況

1日当たり株式約定件数・約定金額（四半期推移）

■ 約定件数、約定金額とも、三市場株式個人委託売買代金に連動し推移。

左軸：（約定件数 件、切捨 / 約定金額 百万円、切捨）

右軸：（三市場個人委託売買代金 億円、切捨）



	平成18年3月期				平成19年3月期				平成20年3月期
	05/Q1	05/Q2	05/Q3	05/Q4	06/Q1	06/Q2	06/Q3	06/Q4	07/Q1
約定件数/日	35,633	47,746	65,763	81,359	60,633	50,578	49,666	59,851	49,870
約定金額/日	37,369	55,715	87,113	103,928	77,892	61,538	61,519	81,128	65,382
三市場株式個人委託売買代金/日	6,368	10,372	17,097	16,533	11,931	9,313	9,777	13,003	10,840

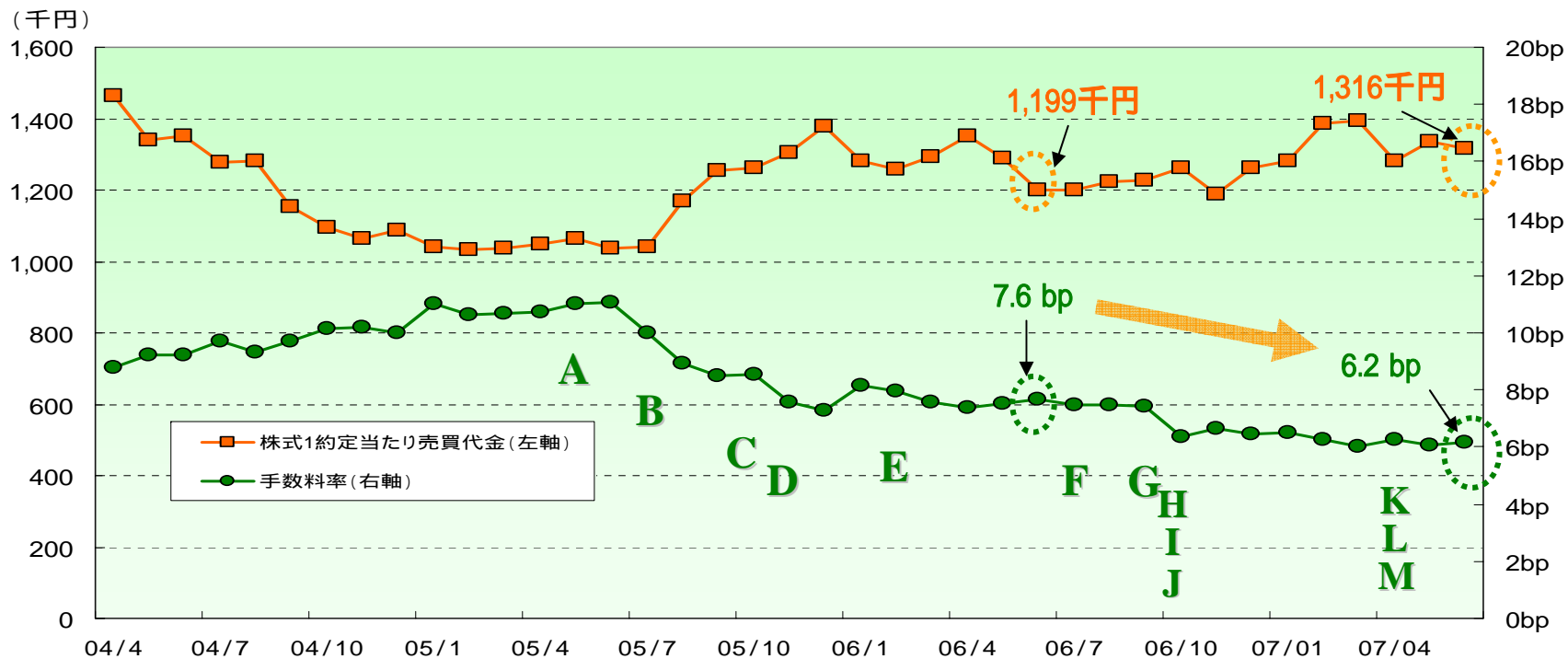
東京証券取引所公表数値より当社算出

手数料率と株式1約定当たり売買代金

■ 2009年予定の株券電子化に向け、今後も収益性を勘案し手数料を段階的に引下げ。

2005/05: 「シニア割引(60歳以上)、株主推進割引:当社」(A)
 2005/07: 「信用手数料の値下げ」(B)
 2005/10: 「株主優待割引」(C)
 2005/11: 「現物株式・プチ株の委託手数料値下げ」(D)
 2006/02: 「信用手数料のワンウェイ手数料改定」(E)
 2006/07: 「シニア割引を団塊の世代を含む50歳代に拡大」(F)
 2006/09: 「kabu.comPTSみなやかんキャンペーン」(G) (3月まで)

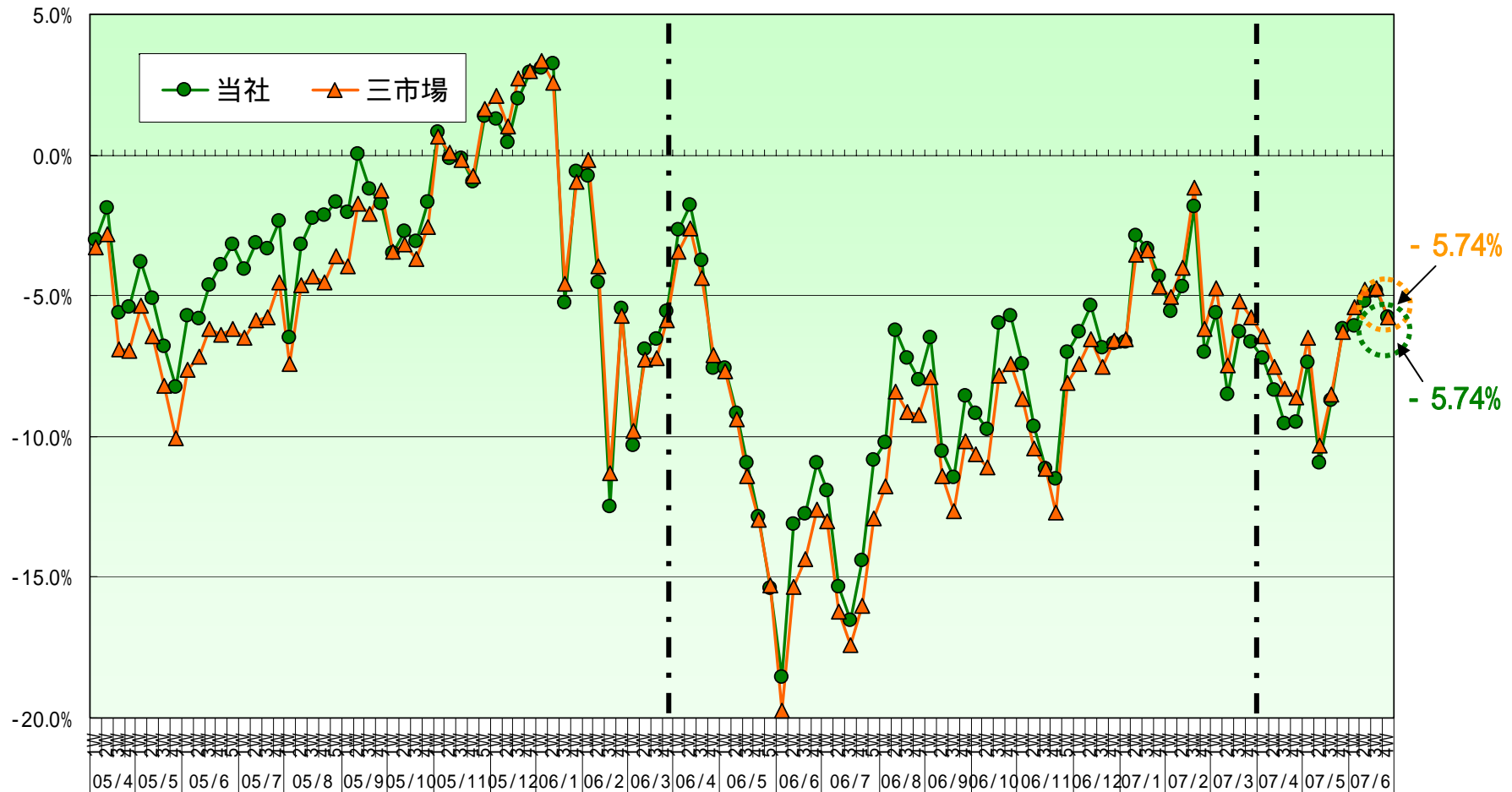
2006/10: 「信用手数料大幅下げ、ワンウェイ手数料廃止」(H)
 (約定代金50万円以下は49%の値下げ)
 2006/10: 「株主推進割引:MUFG、UFJニコスを追加」(I)
 2006/10: 「夜間取引+取引所」の連携注文で、378円キャッシュバック」(J)
 2007/04: 「kabu.comPTS」の手数料引き下げ (K)
 2007/04: 「プチ株@」の手数料の引き下げ (L)
 2007/04: 夜間取引手数料半額(189円)キャンペーン(5月まで) (M)



手数料率は、株式委託手数料 ÷ 株式約定金額 にて算出

信用評価損益率(買建のみ)

■ 信用評価損益率は、当四半期中に一時悪化するも、昨年6月来の改善傾向は継続中。



東京証券取引所公表数値より当社算出

三市場、当社ともに信用評価損益率は、 $[\text{評価損益(買建のみ)} \div \text{信用建玉残高(買建のみ)}]$ の数式にて算出

グラフは、三市場、当社ともに各週末の信用評価損益率を表したものの

株券差引入庫額(1)

- 当1四半期の株券差引入庫額は前四半期比減少するも約97億円の在庫超。
- タンス株の直接在庫額は引き続き堅調。大手3社を含む他の証券会社からの在庫額は減少したが、オンライン専門証券大手4社からは在庫超に転じた。

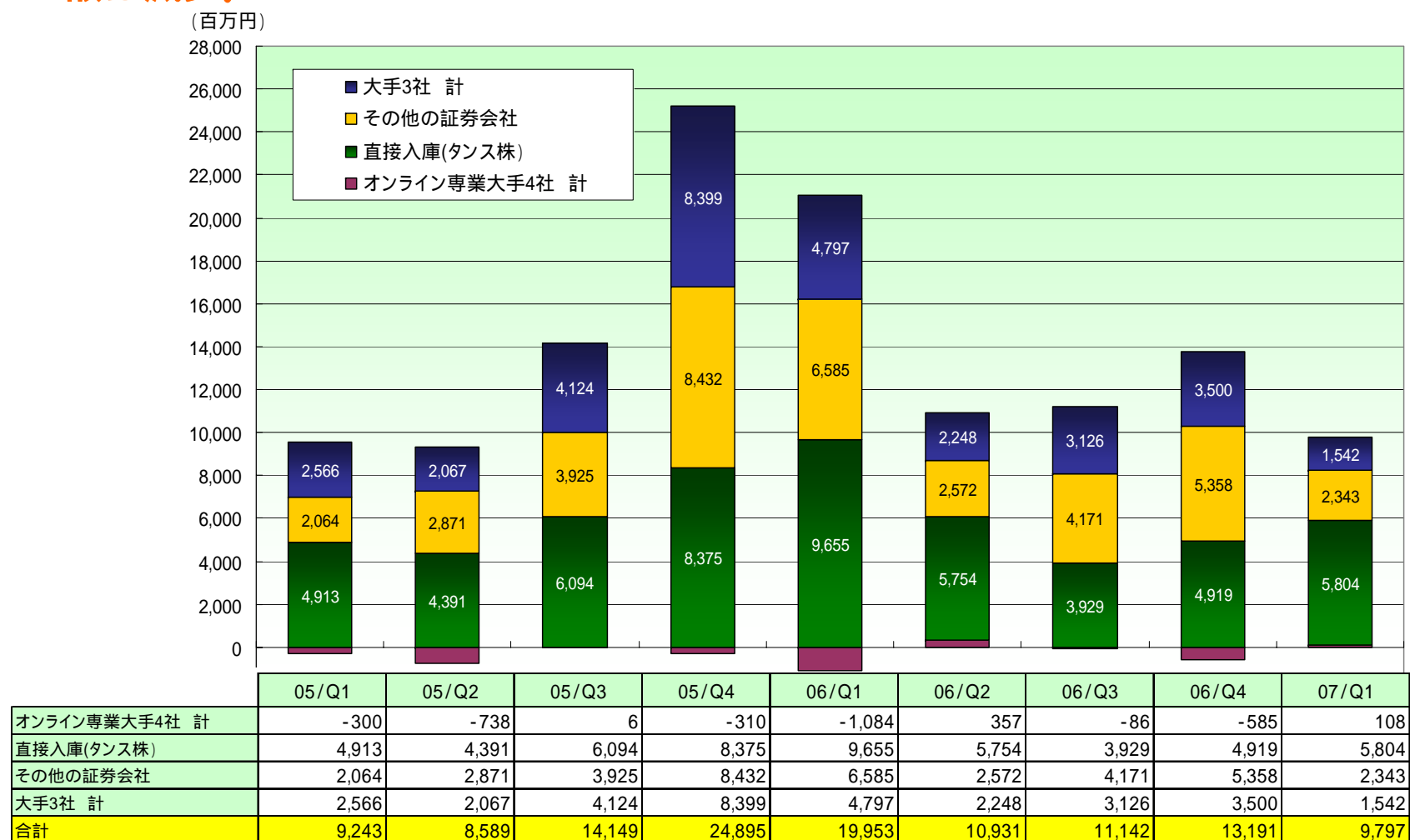
(単位:百万円)

	05/Q1	05/Q2	05/Q3	05/Q4	06/Q1	06/Q2	06/Q3	06/Q4	07/Q1
A証券	12	250	317	249	-163	14	764	-92	126
B証券	-646	-751	-734	-1,048	-911	74	-520	-177	-39
C証券	69	-287	-43	-89	-121	-166	-170	28	35
D証券	265	50	465	579	110	436	-159	-344	-14
オンライン専門大手4社 計	-300	-738	6	-310	-1,084	357	-86	-585	108
X証券	1,668	1,385	2,767	6,133	2,537	699	1,193	1,395	1,461
Y証券	600	283	412	580	514	603	434	206	-423
Z証券	298	398	946	1,686	1,745	947	1,499	1,899	504
大手3社 計	2,566	2,067	4,124	8,399	4,797	2,248	3,126	3,500	1,542
その他証券会社	2,064	2,871	3,925	8,432	6,585	2,572	4,171	5,358	2,343
振替差引入庫額 + +	4,330	4,199	8,055	16,521	10,297	5,177	7,212	8,272	3,993
直接在庫額	4,913	4,391	6,094	8,375	9,655	5,754	3,929	4,919	5,804
合計 (+ + +)	9,243	8,589	14,149	24,895	19,953	10,931	11,142	13,191	9,797

株式差引入庫額は、「他社から当社への在庫額 - 当社から他社への出庫額」にて算出(四捨五入)
 在庫額・出庫額は、当社入出庫管理データを使用し、当社入出庫処理日の時価にて換算

株券差引入庫額(2)

- 株式市場の低調に伴い株券入出庫の動きが鈍化した結果、株券差引入庫額は減少。



株券差引入庫額は、「他社から当社への入庫額 - 当社から他社への出庫額」にて算出(四捨五入)
 入庫額・出庫額は、当社入出庫管理データを使用し、当社入出庫処理日の時価にて換算

・ 当期の取り組み等

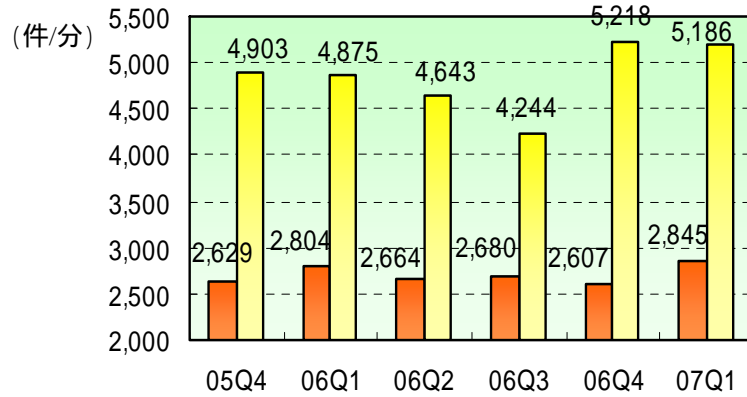
当期の主な取り組み (2007年4月～2007年6月)

	お客様サービス向上に向けた取り組み	取得・受賞・その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・「kabuマシン™」利用料値下げおよび「板41銘柄同時表示キャンペーン」 ～ 先着20,000名様2007年6月末まで無料、「kabuマシンの日」割引を2割引に～ ・「プチ株®」の手数料25～66%値下げ ～ 約定代金の0.945%、最低手数料は105円。「はじめてのプチ株®キャンペーン」～ ・「三菱UFJ世界国債インデックスファンド(毎月分配型)」の取扱開始 ～ 手数料無料、信託報酬0.7875%。ノーロード43ファンド74本含む全158ファンド237本に。～ ・銀行代理業の関係者向け営業開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・三菱東京UFJ銀行による当社株式の公開買付 この結果、MUFGが当社株式の40%を取得
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・電話での株価情報に音声認識技術を本格導入し音声操作に対応 ～ 銘柄名を電話口で発声することで株価照会。夜間取引含め24時間リアルタイム株価に対応～ 同時にお客様サポートセンターの営業時間の時間変更(19:00時まで) ・外国為替保証金取引の開始 ～ 株券を担保に利用できる主要ネット証券初のFX～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・株スクールin津田ホールを開催
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・GSニアピンeワラント取扱開始 ・ベトナム株式等アジア投資ファンドやREITなど投資信託2ファンド4本追加を発表(7月2日より開始) ～ 「夏の投資信託キャンペーン」実施～ ・「ファンドDE割引™」投信残高1,000万円毎に株式手数料を毎月1回無料を発表(7月1日より開始) ～ ネット証券初、投資信託のお預かり残高に応じて株式手数料を無料にする割引プラン～ ・手数料無料(ノーロード)ファンドを67ファンド109本に拡大を発表(7月2日より開始) ～ 23ファンド33本を手数料無料(ノーロード)化し、主要ネット証券最多水準に～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・MUFGグループ個人投資家セミナー ・第8回定時株主総会の開催 総会決議により、MUFGの連結子会社化へ ・カブ四季総会(東京)の開催 ・日本格付研究所による格上げ(6月) : 長期優先債務格付 A+/3段階引上げ : 短期優先債務格付 J-1/1段階引上げ ・SLA(サービス品質保証制度)を実現するための技術に関する特許を取得

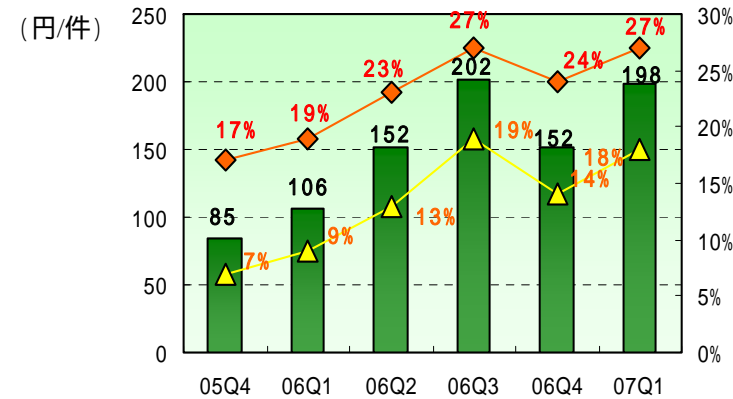
システム関連の開示

■ 当四半期の実績

- 株式電子化や今後の業容拡大を睨み、勘定系システムを最新機種に刷新、あわせてBCP対応を実施し、システム費用が増加しております。



■ 注文発注性能値 (株式) ■ 約定入力性能値 (株式)



■ 株式1約定あたりシステム費用
◆ システム費用/販管費比率
▲ システム費用/受入手数料比率

■ 主な設備増強及びシステム障害 (第1四半期)

主な設備増強 (2007年4月 - 6月)

日付	増強内容
4/29	勘定系データベースサーバを最新機種へリプレースし、同時にBCP対応を実施しました。

システム障害 (2007年4月 - 6月)

2007年4月 - 6月の間、システム障害は発生しておりません。

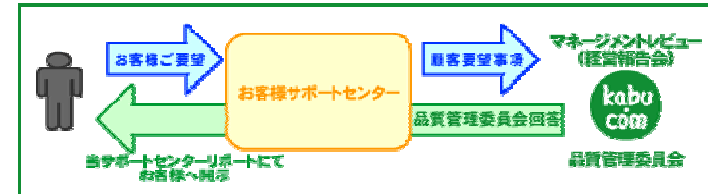
システムレポートは月次で定期開示しております (<http://kabu.com/feature/system/report.asp>)

お客様サポートセンター関連の開示

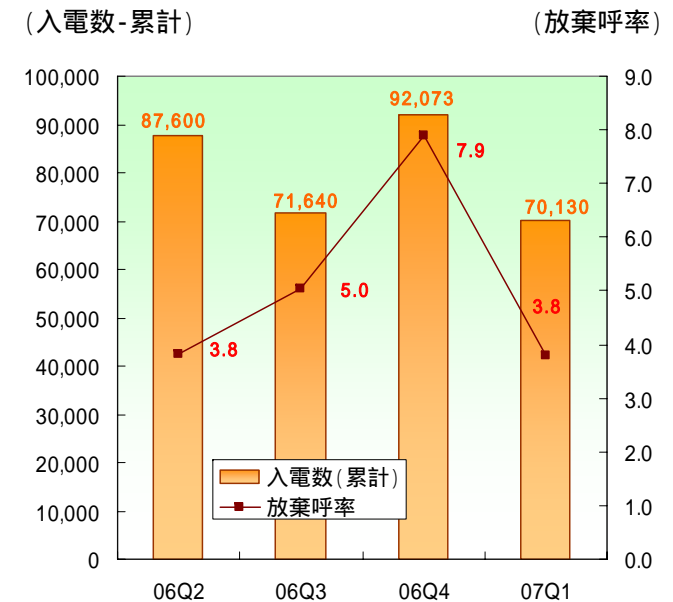
■ 当四半期の実績

- 当社のお客様サポートセンター業務は、国際規格であるISO9001に基づき、品質マネジメントのPDCAサイクルを徹底して実行しております。その一環として、オペレーターがお客様よりいただきました「ご意見、ご要望」は、「お客様要望事項」として毎月当社品質管理委員会のマネジメントレビューにて経営者に報告されております。
- サービス改善事項等については、「サポートセンターレポート」にて月次で定期開示いたしております。(http://kabu.com/support/report.asp)
- 当四半期では、「お客様要望事項」より、音声認識技術に対応した個別銘柄の株価照会サービスを導入いたしました。
- 同サービス導入や、お問合わせ状況を鑑み、サポートセンターの営業終了時間を1時間短縮いたしましたが、放棄呼率は3%台の低水準を維持しております。
- サポートセンターでは、オペレーターの品質向上を常に目指し、その結果、電話対応コンテストにおいて毎年好成績を残しております。
 - ・ 第10回 業種別企業電話対応コンテスト 金融部門「優良賞」受賞
~5年連続入賞・優秀賞は3度目~
 - ・ 第45回 電話対応コンクール 東京都中央地区大会(個人戦) 奨励賞受賞
~5年連続の入賞~

お客様サポートセンターの品質管理



お客様サポートセンター利用状況



売買審査状況

- 「金融商品取引法」への改正に伴い、実効性のある売買審査を強化。
- 市場動向等、多角的な視点で捉え、投資家保護に努めます。
- 証券市場の公正性、信頼性の確保のため、不公正取引の未然防止に努めます。

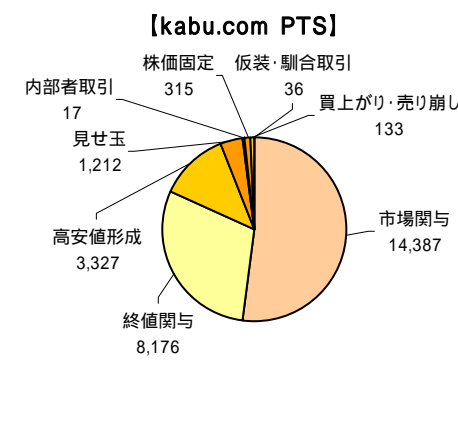
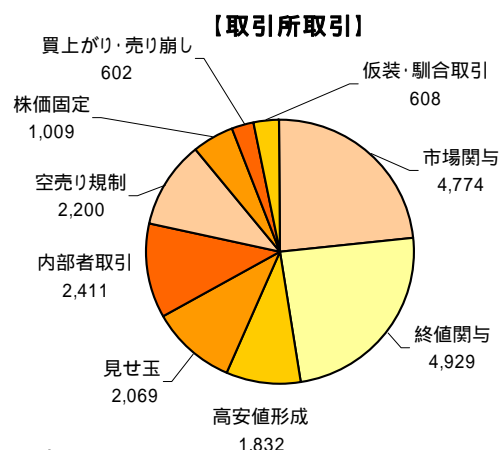
<平成20年3月期 月次推移>
主な売買審査状況

売買審査項目	4月		5月		6月	
	取引所取引	kabu.com PTS	取引所取引	kabu.com PTS	取引所取引	kabu.com PTS
空売り規制	659(78)	-(-)	811(88)	-(-)	730(74)	-(-)
買上がり・売り崩し	214(9)	39(0)	198(10)	48(0)	190(7)	46(0)
終値関与	1,448(9)	2,330(1)	1,731(5)	3,072(0)	1,750(4)	2,774(0)
仮装・馴合取引	201(0)	14(0)	221(2)	14(0)	186(1)	8(0)
見せ玉	605(18)	459(0)	642(23)	421(0)	822(24)	332(0)
高安値形成	630(3)	1,045(0)	620(2)	1,190(0)	582(1)	1,092(0)
株価固定	321(2)	69(0)	338(2)	108(0)	350(9)	138(0)
市場関与	1,508(26)	4,388(0)	1,628(6)	5,055(0)	1,638(13)	4,944(0)
内部者取引	764(0)	2(0)	930(0)	6(0)	717(0)	9(0)
月間計	6,350(145)	8,346(1)	7,119(138)	9,914(0)	6,965(133)	9,343(0)
審査件数/ 注文件数	0.79%		0.86%		0.73%	

上記表は、当社売買審査基準に基づいて取引審査を行った件数、()内は、そのうちご案内や注意を行った件数

<当四半期>
主な売買審査件数内訳(件数順)

売買審査項目	第1四半期	
	取引所取引	kabu.com PTS
市場関与	4,774	14,387
終値関与	4,929	8,176
高安値形成	1,832	3,327
見せ玉	2,069	1,212
内部者取引	2,411	17
空売り規制	2,200	-
株価固定	1,009	315
買上がり・売り崩し	602	133
仮装・馴合取引	608	36
合計	20,434	27,603
審査件数/ 注文件数	0.79%	



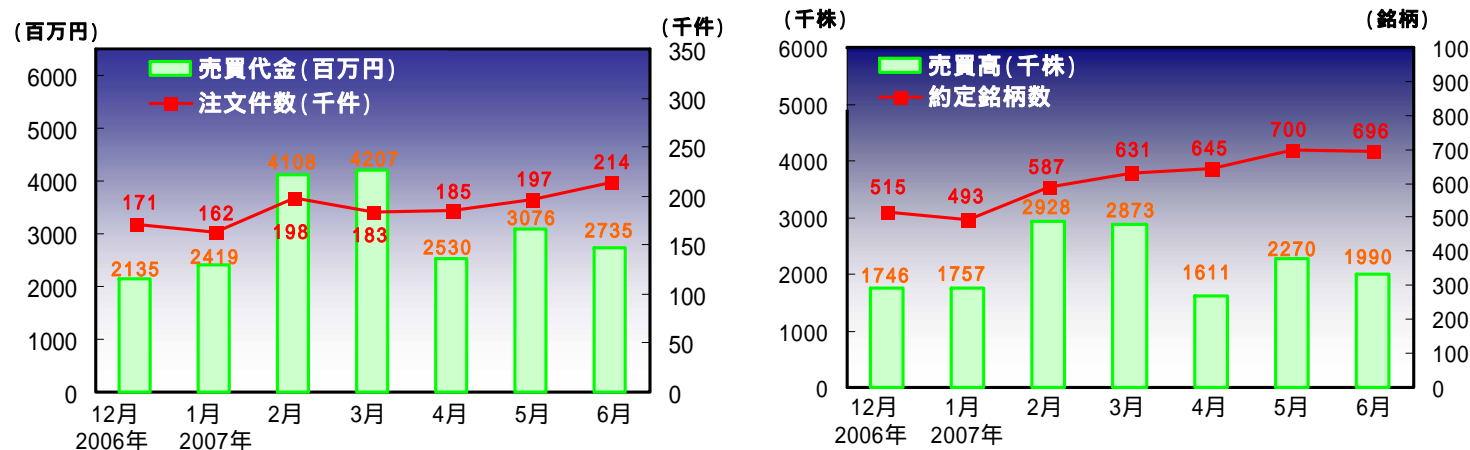
売買審査状況は月次で定期開示しております (<http://kabu.com/company/disclosure/mktsurvey/>)

kabu.comPTS(夜間取引)関連の開示

当四半期は、順調に注文件数を伸ばし6月には過去最高記録(1日)を更新。

4、5月は大型株優良株等を中心に3月期決算発表に伴う個別銘柄の物色が目立ち、約定銘柄数も順調に数値を伸ばしました。

6月に入り、海外市場(米国・中国・ヨーロッパ)の影響を受け、夜間取引市場の注文件数や取引が増加する傾向が強まりました。



PTS夜間市場に関する主な取り組み(当四半期)

- 2007/04 「kabu.comPTS」の正規手数料を引き下げ、約定代金1,000万円までは、378円均一に。
- 2007/04 第二回夜間取引無料ネットセミナーを実施。
- 2007/05 外国為替保証金取引(FX)開始に伴い外国為替相場に感応度が高い株式個別銘柄ランキング機能をスーパーチャートに搭載してkabu.comPTSとの連携できる投資環境をご提供。
- 2007/05 お取引事例コンテンツの拡充。実際にお客様が取引された事例のご紹介。

PTS夜間市場に関する今後の取り組み

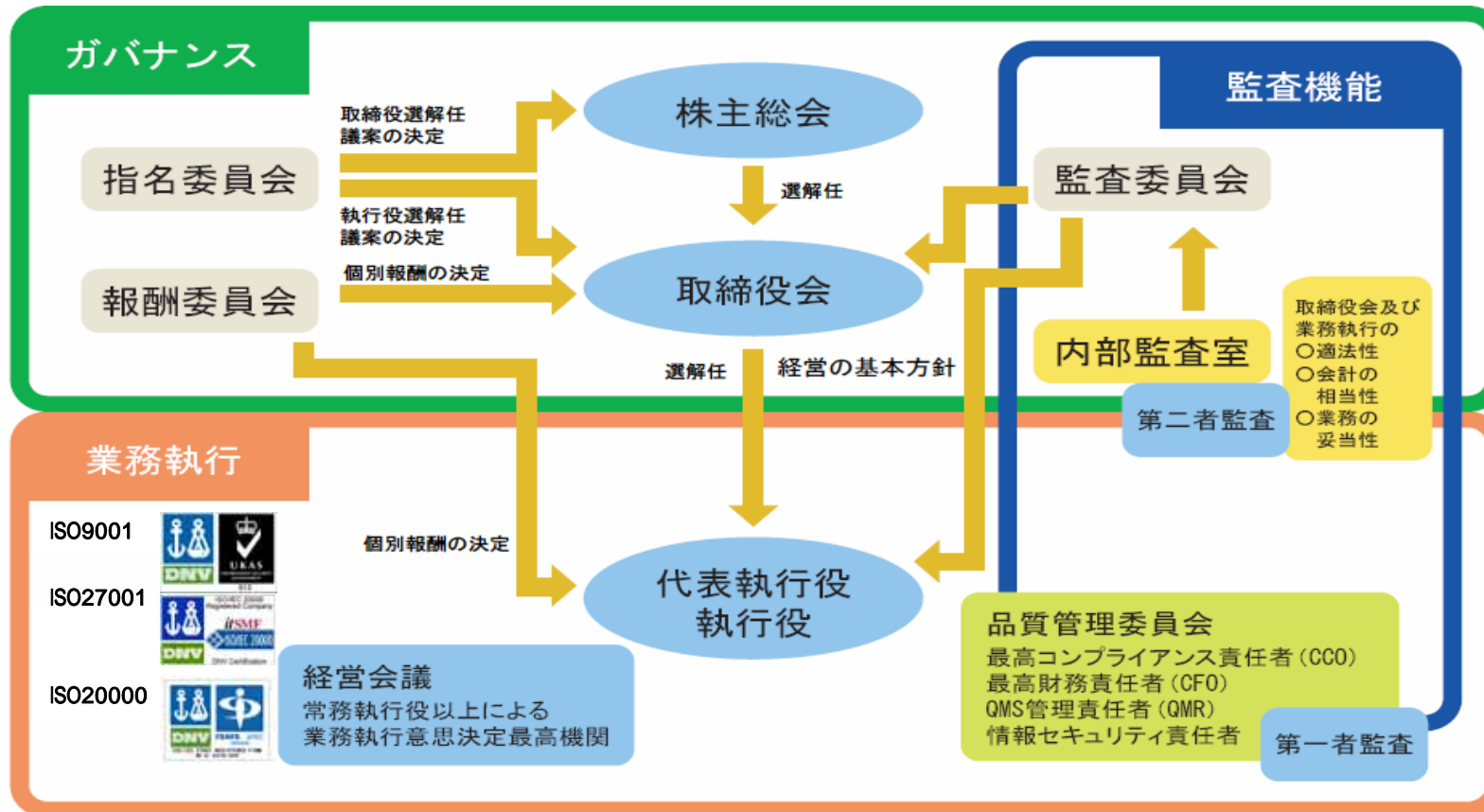
- 信用取引の取扱い開始
- 三証券会社(三菱UFJ証券、ゴールドマン・サックス証券、BNPパリバ証券)を始めとした、同業他社接続の開始(自社勘定取引~顧客勘定取引)~3社以外も随時実施~



kabu.comPTSレポートは月次で定期開示しております (<http://kabu.com/pts/default.asp>)

コーポレート・ガバナンス

- 「委員会設置会社」と、「品質(ISO9001)」「情報セキュリティ(ISO27001)」「ITサービス管理(ISO20000)」の国際規格による「PDCAサイクル」を基盤としたコーポレート・ガバナンスを確立しています。



2003年6月 国内オンライン専門証券では初めて、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001(2000年版)の認証を取得
 2006年8月 国内証券会社では初めて、情報セキュリティ管理の国際規格であるISO27001の認証取得
 2006年8月 国内金融機関では初めて、ITサービス管理の国際規格であるISO20000の認証取得

知的財産関連の活動状況

当社では、新技術およびそのサービス名称を「特許権」「商標権」として権利化することにより企業の保有する知的資産の価値として蓄積し、企業価値の向上に結びつけるため、知的財産戦略に積極的に取り組んでおります。

- SLAに関する特許を新たに取得し、当社の登録特許の件数は**オンライン専門証券最多の6件**となりました。(共同特許含む)
- 特許の一部については、ライセンス料収入の実績が発生。他社についても抵触状況を調査・確認中であり、今後収入実績先を広げていく予定です。
- 当四半期に経済産業省から公表された「知的財産情報開示指針」に準拠した「**知的財産報告書**」を更新し、当社ホームページで開示しました。
- kabu.comPTS(夜間取引)の関連技術など、当社独自のサービスに関する特許を多数出願中です。

登録特許の内容

三菱東京UFJ銀行との共同特許

特許登録番号	特許権の概要
特許第3719711号 ()	電話をかけ直すことなく、コールセンター間の通話を可能にする中継方法
特許第3734168号	【自動売買】± 指値(プラマイさしね®) の処理システム
特許第3754009号	【自動売買】 W指値® の利益確定とロスカットの幅を自動設定するUターン注文の処理システム
特許第3875206号	【自動売買】当社の 逆指値 注文をはじめとする 自動売買 を実現するための発注装置
特許第3916242号 ()	オンラインによる証券口座開設ならびに、開設後の自動ログインによる証券取引
特許第3966475号	SLA(サービス品質保証制度) を実現するための技術

・ 当社の経営目標

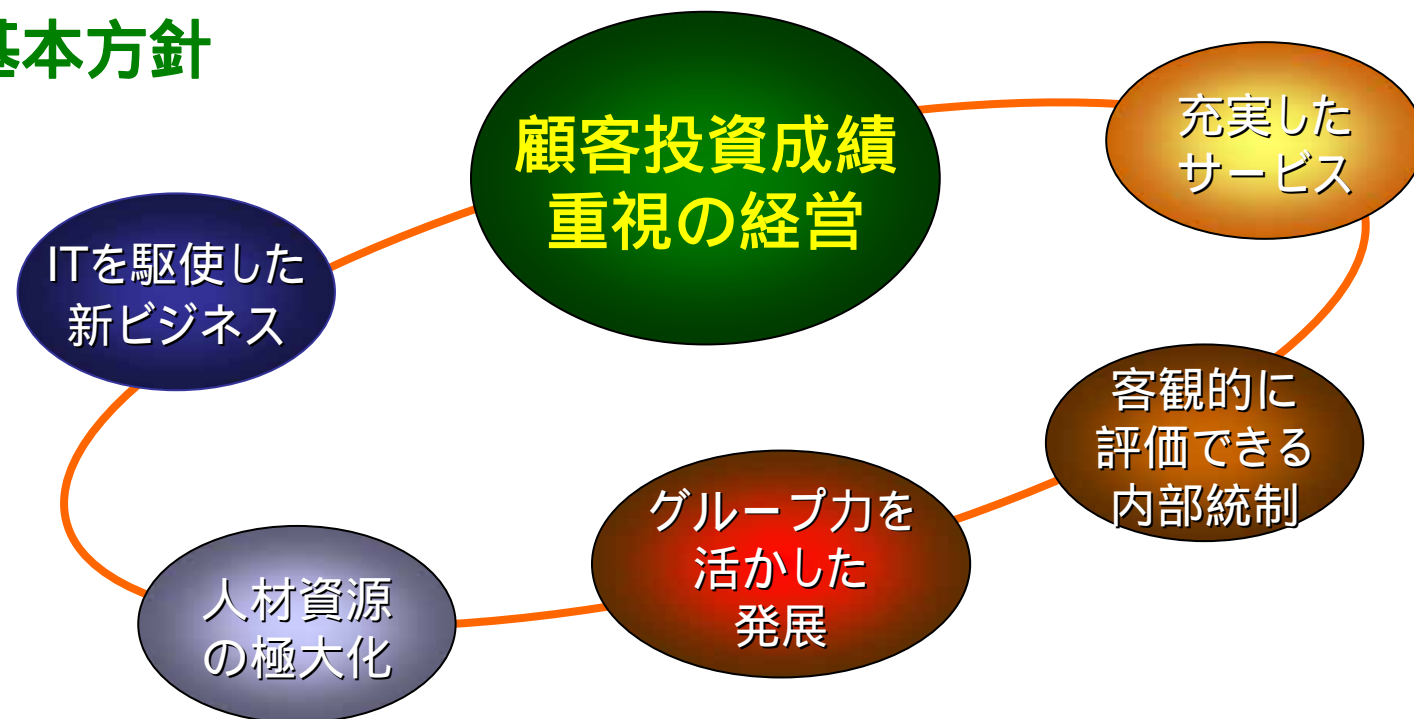
当社の経営理念・経営方針

経営理念

顧客投資成績重視の経営

- 個人投資家へ「**リスク管理追求型**」というコンセプトのもとに、利便性と安定性を徹底的に追求した独自サービスを提供するとともに、啓蒙を図り「新しい投資スタイル」を提供します。

経営基本方針



当社の経営目標

ROE20%台の維持 >>> 当四半期のROEは 16.5%

- 当社は、企業価値最大化のためには自己資本に対する利益率の向上がその基盤になると考え、当期純利益によるROE(自己資本利益率)を重視しております。
- 目標とするROE20%台を中期的に維持することをめざしてまいります。
- ROEの目標達成のためには効率的な収益構造が必要であり、コストカバー率()を常に監視してまいります。

コストカバー率

委託手数料 ÷ 販管費率:

委託手数料で販管費を何倍カバーできるかを表したもの

委託手数料 ÷ システム関連費率:

委託手数料でシステム関連費を何倍カバーできるかを表したもの

*システム関連費 = 不動産関係費+事務費+減価償却費

前期の利益配分として下記を実施いたしました。

期末配当額 1株あたり**2,000円** (配当性向**31.9%**相当)

- 当社は、財務体質の強化、将来の事業拡大のための内部留保等のバランスを考慮にいれながら利益配分を行うことで株主利益の最大化を図ることをめざしてまいります。今後も株主利益の最大化を図りつつ、**30%程度の配当性向**を維持することを経営目標としてまいります。

kabu.comは積極的な開示を続けております

IR情報

<http://kabu.com/company/>

決算・財務情報

http://kabu.com/company/disclosure/accounting_line.asp

業務情報（委託手数料の推移）

<http://kabu.com/company/disclosure/comission.asp>

業務情報（注文・約定情報等の推移）

<http://kabu.com/company/disclosure/order.asp>

システムレポート

<http://kabu.com/feature/system/report.asp>

サポートセンターレポート

<http://kabu.com/support/report.asp>

kabu.comPTS 夜間取引情報

<http://kabu.com/pts/default.asp>

SLA（サービス品質保証制度）精査状況

<http://kabu.com/company/disclosure/sla.asp>

売買審査状況

<http://kabu.com/company/disclosure/mktsurvey/>

コーポレートガバナンス

<http://kabu.com/company/governance.asp>

知的財産報告書

http://kabu.com/company/disclosure/ip_report.asp

品質管理システム報告書

http://www.kabu.com/company/disclosure/qms_report.asp

カブドットコム証券

東証1部 [8703]

わたしたちは**MUFG**です。